

令和 6 年 2 月 21 日

教 育 長 様

代表者	校 園 名 :	大阪市立大和川中学校
	校園長名 :	福島清文
	電 話 :	6694 - 0005
	事務職員名 :	木戸麻生
申請者	校 園 名 :	大阪市立大和川中学校
	職名・名前 :	首席 小谷拓
	電 話 :	6694 - 0005

研究コース
<b>S 研究テーマ指定 (A)</b>
校園コード (代表者校園の市費コード)
<b>732663</b>
選定番号
<b>309</b>

## 令和 5 年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇令和 5 年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	S 研究テーマ指定 (A)	研究年数	継続研究 (3 年目)
2	研究テーマ	GIGAスクール環境下における多様な学びの実現と個別最適化学習の探究			
3	研究目的	本校では、インクルーシブ教育の一環として「だれひとり取り残さない学び」をテーマに、授業動画ライブの作成を2017年度から進めてきた。また、新学習指導要領に合わせた「主体的・対話的で深い学び」の実践もカリキュラムマネジメントや情報活用能力の育成とともに進めてきた。 今回GIGAスクール環境が整備されるに伴い、生徒たち自身の本当の「学びの主体性」とは何かを明らかにし、1人1台のPCを今まで以上に効果的に活用する手段を探りたい。 同時に、テストのデジタル採点システム（リアテンダント）やAIドリル（すらすらドリル）、配布文書のデジタル化（ホームページ、保護者メール、Google form）を行っていくことで校務の情報化を図りつつ、GIGAスクール環境下で大人も生徒も「新しい学びのカたち」に向かえる環境づくりを目指す。			
4	取り組んだ研究内容	<p>いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。 (MS Word 9.5 点 イント)</p> <p>通年で実施したこと</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 授業教材のパッケージを生徒に提供し、単元ごとに自由進度学習に近い授業展開を行った。</li><li>→ 個別最適な学びに近づけた一方、進度にバラツキが出てくるという、当初の予想通りの問題も浮き彫りになった。</li></ul> <p>・ 国数英にて習熟度別学習を実施し、その中で効果的なICTの活用についても検討を行った。</p> <p>・ 情報活用能力育成のためのスキルアップシートを活用し、生徒自身に能力レベルの自覚を持たせる取り組みを行った。</p> <p>→ スキルアップシートは桃山学院教育大学の木村准教授より提供いただいたものをベースに使用。</p> <p>・ カリキュラムマネジメントの本質を考える研修を実施し、そもそも「カリマネ」は普遍的に本校の取り組みに組み込まれている状態である。改めて実施するというよりは、大人が「なぜこの取り組みをおこなっているのか？」という、メタ認知を行うことが重要であるとの結論に至った。</p> <p>・ 校務の情報化については、変わらず実施した。</p> <p>→ インフルエンザ等の感染症蔓延時も、迅速にオンライン授業とのハイブリッド型で対応することで、学級・学年閉鎖をせず、学びを止めずに済んでいる。</p> <p>・ AIドリル、そして心の天気などの活用については、アンケート等の実施により、必要な生徒とそうでない生徒がいることがわかっている。</p> <p>→ 本当に必要な支援（ICTだけでなく）が、個別最適に提供されることを目指すとすると、活用を強制することは本質に反するため、一定の活用頻度に留まらざるをえないことも判明した。</p> <p>・ VRや桃鉄など新しいコンテンツに触れながら学習を進めることで、学びの主体性を引き出す授業を意識した実践を行った。</p>			
	研究発表等	研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。			
		日程	令和 6 年 1 月 31 日	参加者数	約 25 名

5	内容・ 場所・ 参加者数	場所	大和川中学校
		備考	公開授業3クラス（社会・音楽・国語）で実施後、研究協議と研修

6	成果・課題	<p>大阪府教育振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>および<u>教員の資質や指導力の向上</u>について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。</p> <p><b>【見込まれる成果1】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</li> </ul> <p>GIGAスクール環境下において、端末を使いこなし個別最適化学習の手段として有効に活用する生徒の育成</p> <p>《検証方法》</p> <p>随時ガイダンス、アンケートを実施することで、端末が従来の筆記用具などと同じように日常的に活用できているのかを細かく把握する。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>研究内容にも記述したが、3年間の継続実践によりICTが必要な場面と、そうではない場面が浮き彫りになった印象である。</p> <p>GIGA端末の活用方法や活用頻度についても個別の差異があり、一律に活用を促すだけでは結局ノートやプリントを使った授業や取り組みと変わらなくなってしまう。</p> <p>さまざまなツールを提案し、それをどう活用していくのかという選択肢を提案することで生徒個人に最適化された学習環境とはどんな状況なのかを学校も考え続けていく（継続して）必要がある。</p> <p><b>【見込まれる成果2】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</li> <li><input type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</li> </ul> <p>自ら学習ツールや教材を選択し、主体的に学びに取り組む生徒の育成</p> <p>《検証方法》</p> <p>アンケートで、学習に活用した教材の順番や学習時間を聞き取ることで家庭学習の進め方など、生徒の学習の在り方を可視化する。</p> <p>また、AIドリルや協同学習ツールなどでアンケートだけでは拾いきれない、学習時間や進度の把握を行う。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>アンケートを継続して実施した結果と学習結果を併せて検証した結果、教材の単体の提供よりパッケージやツールの選択肢のあるほうが学習に対するモチベーション向上につながるということがわかった。</p> <p>今後どのような場面でどのようなツール（アプリ）を活用していくのか、学校単位や教育ブロック単位での選択できる環境になっていくと、「だれひとり取り残さない個別最適な学び」につながっていくのではないかと。</p> <p><b>【見込まれる成果3】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</li> </ul> <p>パッケージを有効活用し、なおかつ協働的なツールとしてICTを活用できる生徒の育成</p> <p>《検証方法》</p> <p>協働学習ツールとしてコラボノートなどを活用し、その学習履歴を検証することで活動状況を把握する。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>教材パッケージの提供による学習教材の活用率は90%を超えていた。</p> <p>また、協働学習でのGIGA端末活用率も100%であった。</p> <p>結果としてパッケージの提供は学習の手助けになることがわかったが、それに付随する単元ごとの課題の出し方が非常に重要になってくることがわかった。</p> <p>単元で学習したことを課題や協働学習でアウトプットするという情報活用能力の向上が結果として出ており、ICTを効果的に活用した実践となった。</p>
---	-------	---

6	成果・課題	<p><b>【見込まれる成果4】</b></p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>パッケージを作成することで、教員のインクルーシブ教育への意識を向上し、学習の個別最適化を浸透させる。</p> <p>《検証方法》</p> <p>教員研修（ワークショップ型）、またそのアンケート内容から教員全体が新学習指導要領に沿ったマインドセットに変化しているか検証を行う。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>授業動画の作成、教材パッケージの提供、習熟度別学習、研修などを年間通して実践してきた。結果として、職員全員のマインドセットが変化したかという点、そうではない部分も多くある。</p> <p>従来の指導法を否定するのではなく、これまでの教育実践×ICTや新しい取り組みを提案することで今後も教員や学校の取り組みを継続していく必要がある。</p>
---	-------	---

<p><b>【研究全体を通した成果と課題】</b> 研究発表会等で使用した資料や研究冊子から引用し、端的に記述してください。</p>		
<p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>・GIGAスクール構想の前倒しという状況で、どのような活用や教材提供が生徒にとって効果的なのか、また個別最適化された学びに近づくにはどうすればよいのかということをテーマに、教員研修やカリキュラムマネジメントに基づく授業展開、授業動画を活用した単元学習パッケージの提供など、多くの取り組みを実践することができた。</p> <p>結果として、多くの成果を得ることができたが、同時に教員の負担も当然増加した。</p> <p>そこで、本校ではデジタル採点システムや配布文書のデジタル化など、働き方改革も同時並行で行い、ICTに任せることができる業務を率先して切り替えることで、業務量の帳尻を合わせた。これは、他校にも当然あることは事実であり、ICT機器が整備されれば翌日からオンライン授業や様々な取り組みが出来るわけではなくということも事付けられたといえる。</p>		
<p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>本研究で目指した、教科学習のパッケージングを行うことでの個別最適な学びについて、一定の成果があったと認識している。生徒の教科観や学習法へアプローチできたこと、結果として単元テストや単元課題の成果改善へ繋がったことは大きい。今後のGIGAスクール環境下で、教科学習のパッケージングがICT活用法として汎用性を持ち、今後さらなる個別最適な学びに繋げることができるよう、実践を続けたい。</p> <p>また、本年度は学校としてICTの取り組みを大きく拡充することができた。その結果JAETのICT推進先進校の認定を2年連続で受けることができていた。</p> <p>しかしながら、生徒のテスト（チャレンジテストなど）のスコアが伸び悩んでいるという課題も抱えており、今後ICT活用での学習意欲向上と基礎学力の定着をどのように両立させていくのかという課題に取り組んでいく。</p>		
<p>3. 継続研究（3年目）</p> <p>【成果】 1. 学習効果の向上: ICTを活用した授業により、生徒たちの学習効果や主体性が向上する結果がみられた。オンライン学習や学習アプリを使い、個別最適な学びの実現を目指すことで、一定の生徒たちが自分のペースで学習できる環境が整った。</p> <p>2. 学習意欲の向上: ICTを駆使した授業を考案していくことで、インタラクティブな学習コンテンツやゲーミフィケーションの要素を取り入れたアプローチができ、生徒たちがより主体的に学習に取り組む姿がみられた。</p> <p>3. 個別最適化学習の実現: 生徒たちの学習状況や理解度を把握し、各自が自身にとって最適化された学習プランを選択することが可能になった。</p>		
<p><b>《代表校園長の総評》</b></p>		
<p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>本校はGIGAスクール構想の前年度よりGoogleよりChromebookを借り受け、1人1台環境を試験的に行うことができていた。今年度からスタートしたGIGAスクール環境にも、速やかに対応できたが、それは前年度ひいてはICT推進拠点校であったことが大きいと感じている。</p> <p>本年度はJAETの先進校にも認定されたが、その中でICT機器を使用することを目的とするのではなく、学校環境や生徒1人1人に最適化された活用法や学びを探究することができた1年であった。もちろん、失敗事例もあったがそれも含め今後も大阪市全体で共有していきたいと考えている。</p>		
<p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>本校の取り組みについて、昨年度に続き2年連続でJAETの情報化認定において先進校の認定を受けることができた。これは中学校カテゴリーでは日本初のことであり、大きな成果であると考えております。実際に認定を知った多くの自治体からの学校視察を受け入れ、その都度大阪市や大和川中学校の取り組みを発信してきました。</p> <p>がんばる先生の取り組みについても2年目を終え、成果と課題も見えてきたところです。</p> <p>今後について、学校も50周年という節目を迎えたことから、次の50年に向けて「持続可能な学校」である。</p>		
<p>3. 継続研究（3年目）</p>		

	<p>この3年間の取り組みでみてきたことは、実践に伴う効果検証でわかった課題ををすぐに次の実践に反映することの大切さです。どうしてもPDCAサイクルで教育活動を回すと、当初の計画に狂いが生じたり、思った成果が得られない時に、対応が後手になってしまうことが多くあるため、本校ではOODAループのサイクルを基本として取り組みを行ってきました。</p> <p>その結果として、さまざまな成果を出すことができ、本実践でもNEXT GIGAを意識した先進的な取り組みを行うことができたと考えています。</p>
--	---